

第16回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

- ◆日時 令和5年3月29日（水）14時00分～17時00分
- ◆会場 南あわじ市役所本館3階 304・305会議室
- ◆出席者 委員：7名
松坂委員（委員長）、登里委員（副委員長）
浅井委員、鈴木委員、堤委員、金沢委員、福成委員
事務局：4名
総務企画部付部長、ふるさと創生課長、ふるさと創生課担当
傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会

委員長あいさつ

2. 協議事項

①南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について

・事務局から南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●Ⅰ－1 防災意識の向上、円滑な消防防災活動の推進

（委員）防災訓練について、人が集まらなくてもできる訓練もあるのではないかと思う。
形骸化していくのは仕方ない面もあるので、どうすれば持続的に参加して意識してもらうことができるかということをいろんな工夫をすべきと思う。

●Ⅱ－1 田舎暮らしの促進

（委員）移住定住のところで、目標値を上回る成果が出ているとあり、空家が売れたという話も聞く事があるので、事実だと思うがどの世代、どういった地域から移住されてきているのか。

（事務局）KPIについて79件としているのは、島外からの移住者数。

うちマイホーム取得事業補助金を活用したところが20件あり30代の利用が8件と最も多いところ。

（委員）移住定住について、上手くいかないという事例もあって、移住後のサポートだったりはあるのか。

(事務局) 移住者の方同士がコミュニケーションをとれる機会を設け、情報共有だったり、それをきっかけに繋がりをもってもらえる事で、少しではあるがサポートに繋がっているのではないかと考えている。

(委員) 地域でサポートできるようなことがあればいいかもしれない。

(事務局) 自治会への加入を促進するための取組みも実施しているところ。

(委員) 空家を移住者の方に活用してもらえないだろうか。立派な家も放置されると数年で住めなくなってしまう。

(事務局) 空家については空家の掘り起こしに対して奨励金を出す等、取り組んでいるところ。他に空家の適正管理のため補助金制度を設けているところ。

●Ⅱ－6 マイカー以外の客層の拡大のため島内連携した公共交通網の整備

(委員) 公共交通について、コミュニティバスは乗継ぎの際に追加で費用をとる事が無いようにすると利用者は増えると思う。

(事務局) その点について、学生の場合はフリーパス券の制度も活用できるところ。ただ、ご意見いただいたことからまだまだ周知ができていないところが課題だと考えており、更に周知を図っていきたい。

●Ⅳ－1 子育てしやすく安心して暮らせる環境と地域との協働支援体制づくり

(委員) コロナ禍の不安で出生数が減少しているとあるが、そこを改善すれば出生数の減少は抑えられると思うが、コロナが終息すれば大丈夫といった安直な考えになっていないか。

(事務局) コロナ禍においても安心して出産ができるよう、妊娠している方に給付金を支給する等、不安解消に努めているところではあるが、実績値としては減少という結果になっている。出生数のところでいくと、少子化対策にはなるが別途、婚活事業を実施したり、出生数に関しては結婚という部分も大事だと考えている。

(委員) 婚姻数の減少が出生数の減少に繋がっているというのは、コロナ禍から環境が変化しても取り組むべき課題だと思う。

②地方創生交付金事業について

・事務局から令和3年度に地方創生推進交付金及び新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施した事業について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●地方創生推進交付金充当事業

・南あわじ発「人生100年時代の働き方改革」プロジェクト

(委員) 高齢者等元気活躍の仕事について

(事務局) 事業者側にシニア世代に担っていただける業務を切り出していただいている。

事務作業であれば、事務員がいて1日8時間一連の仕事があったときに、シニアの体力などを踏まえると、シニアにしてもらえるところを切り出してもらっている。そこに賛同していただける事業者がどういう業種かによって、事業者側の切り出してくるものと上手くマッチングできれば。お仕事フェアには毎回30-40人程度参加していただいております、71人これまでに就労されている。働く意欲のあるシニア世代の方は多いということは分かっているので、うまくマッチングできればよいなということでやっている。

●新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金充当事業

・空港アクセスバス等実証運行事業

(委員) この事業はずっと続いていくのか

(事務局) アフターコロナを見据えて事業を実施してきたところ。ただ、採算面で課題があり、その点を考えていく必要がある。来年度は便数を絞ったり、利用の多い時間帯で実施したり、どうすれば採算に合うかを見極めていきたい。

・GIGAスクール構想事業

(委員) 今後、コロナの交付金がない場合に事業を継続していくお金はどうするのか。

(事務局) GIGAスクール構想自体はコロナ禍以前からあったもので、財源を確保しながらやっていくものと考えていた。コロナ禍により、子どもの学びを止めないという事で交付金を使って前倒しで実施させていただいたところ。

③第2期 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改定案）について

・事務局から第2期 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改定案）について説明した。

●II-3 高齢者等の雇用・活躍の場の拡大

・スマホ利活用事業

(委員) 高齢者デジタル化促進事業から名称を変更となっているが、これはスマートフォンの利用に特化したということなのか

(事務局) 必ずしもスマートフォンに特化しているということではないが、主にスマートフォンの利活用向上を目的としている。令和4年度は高齢者を対象としていたが、

令和5年度からは高齢者以外も対象としている。

・学ぶ楽しさ支援センター運営事業

(委員) 南海地震が想定される中で防災教育は重要であり、重点的に取り組んでもらいたい。

(事務局) 従来の避難訓練や過去に被災した現地を訪れるような取組み以外に、現地に行かなくても学校でできる取組みを検討していきたい。

(委員) 学校で高い目標をもってやろうとした時に教員の負担が爆発的に増えてしまうような怖いところがある。教職員の自主研修への支援や防災教育、社会的自立支援の推進等、教育体制の充実を図っていただきたい。

3. その他

・事務局からデジタル田園都市国家構想の概要について説明した。

4. 閉 会

○閉会にあたり、副委員長よりごあいさつをいただいた。